

喜多道議会議長、夕張市長ら視察

長期的な支援継続訴える

活動拠点の大沼ふるさとの森自然学校を見学したほか、大沼公園散策中の子どもたちと触れ合った。

喜多道議長の「子どもたちの今後

の健康や生活が心配だ。震災以降の復旧復興に向けて、北海道と東北の関係、日本の在り方を考えるターニングポイントとなっている。道内各地が連携して北海道の潜在能力を価値化し、道を切り開く機会だ」とらえている」と話していた。(今井正一)

ふくしま
キッズ
夏 季
林間学校

【七飯】道議会の喜多龍一

議長や夕張市の鈴木直道市長らが9日、七飯町で「ふくしまキッズ夏季林間学校」の様子を視察した。実行委の吉田博彦副委員長（NPO法人教育支援協会代表理事）が事業の概要や意義を説明。長期的な視野で福島県の子どもたちへの支援継続を訴えることもあった。

視察には、夕張市の清水敬

二理事、道教育庁の杉本昭則生涯学習推進局長らも同行。

鈴木市長は同市で20日から福島市の子どもたち計200人

を受け入れるため、先行事例の運営方法を吸収するために訪れた。一行は、運営本部や

懇談で、吉田副委員長は福

島県の残留放射能汚染の問題に触れ、「最低でも5年間の継続が必要。長期にわたって福島のことを地域の問題として考えてもらわなくてはならない」と話した。また、大沼を受け入れの起点に道内各地で滞在プログラムを展開する

「ゲートウェイ構想」など、来年以降の展開を交え「福島の子どもたちのためにやっていることが、結果として自分たちの町のためにつながっていく」と話した。

喜多議長、鈴木市長はボランティアの学生らとひざを突

……………

吉田副委員長（左端）から説明を受ける鈴木市長（左から2人目）、喜多議長（同3人目）ら

